

グラフィックサービス

発行：一般社団法人 日本グラフィックサービス工業会

G
JaGra

- 新春座談
2021年は
**新しいグラフィックサービス
夜明けの年に!**
コロナ禍で5年早く訪れたデジタルへの対応
地域密着というジャグラの特長を活かそう!
- 連載
我が社の自費出版事情④
版画と謄写とこれから⑥
- NEWSとお知らせ
ジャグラ作品展応募作品募集中!
2019~2020年に完成した作品が対象です

G
S
No.830
2021
01

電子版無料公開中!

スマホでも本誌が読めます
公式HPで本誌PDF版を公開中。
紙媒体より1週間早い毎月中旬に
ご覧いただけます。バックナン
バー閲覧もこちら!



<https://www.jagra.or.jp/>

なかむら通信

読者の皆様へ



ジャグリストの皆さん、令和3年、明けましておめでとうございます。

新型コロナウイルス対策で緊急事態宣言が発令されましたが、対策分科会の尾身会長によると、「一か月では収束しないだろう、少なくとも2月迄はかかり、第4波も予想される」とのこと。もう少し迅速な対応ができなかったのかという思いがありますが、このままでは7割経営どころか良くて5割という売上げも考えられる状況です。ジャグラとしてこの苦境にどう対応するか? 1月中旬の総務委員会・理事会で話し合いますが、三役・役員・事務局、腹をくくってしっかり対処するつもりです。

CONTENTS

●年頭所感

- 1 **2021年、新年のご挨拶**
— ジャグラ会長 中村 耀

●新春座談

- 2 **2021年は新しいグラフィックサービス
夜明けの年に!**
**コロナ禍で5年早く訪れたデジタルへの対応
地域密着というジャグラの特長を活かそう!**
— ◎富士フィルムグローバルグラフィックシステムズ(株)
代表取締役社長 辻 重紀
◎ジャグラ会長 中村 耀
◎ジャグラ副会長 清水 隆司
◎ジャグラ副会長 岡本 泰
◎ジャグラ専務理事(司会) 沖 敬三

●連載

- 24 **我が社の自費出版事情④**
交友印刷(株)(兵庫県神戸市)
— 同社・交友プランニングセンター センター長 横井 司
- 26 **版画と謄写とこれから⑥**
11.22 ガリ版シンポジウムの報告ほか
— Atelier 10-48 主宰/版画家 神崎 智子

●NEWSとお知らせ

- 15 **サイバーセキュリティ体制構築・人材確保の手引きを公開!**
— 経済産業省・サイバーセキュリティ経営ガイドラインから
- 17 **ジャグラ作品展応募作品募集中!**
大臣賞に賞金授与! 2019~2020年に完成した作品が対象
- 18 **委員会通信**
— ジャグラBB/生産性向上/マーケティング/経営技術研究 各委員会議事録より
- 22 **業界の動き**
12.4 秋田県支部・拡大理事会を開催ほか
- 29 **ジャグラBB HOTNEWS**

10 誌上新春名刺交換会
22 法親会のご案内

13 コラム
28 事務局日誌とスケジュール/訃報

月刊
グラフィックサービス

発行 一般社団法人 日本グラフィックサービス工業会

2021年、新年のご挨拶

一般社団法人
日本グラフィックサービス工業会 会長 中村 耀



新年おめでとうございます。

令和3年の年頭にあたり一言ご挨拶申し上げます。

昨年は日本だけでなく世界的に厳しい一年となりました。新型コロナウイルスの脅威は予想をはるかに超え、人の動きが制限されたことにより、モノの生産やサービスが停滞し、世界中の社会や経済が壊滅的なダメージを受けました。我が国においても、緊急事態宣言によるステイホームの実施や、東京オリンピック・パラリンピックをはじめとした各種イベントが延期・中止となり、閉塞感を感じる一年となりました。

印刷業界も例外ではなく、世界的な印刷展・独Drupaの中止、日印産連および傘下団体の各種イベント中止が相次ぎました。ジャグラにおいても文化典高知大会や全国協議会、それに続く今年文化典大阪大会まで中止を余儀なくされるなど、経験のない初めての決断を迫られた年でした。このような中で我が国の政権は安倍首相から菅首相に移り、コロナ禍の蔓延防止と経済活動の両立を目指すべく、IoT活用や行政改革など新しい政策が次々と打ち出され、この国難を乗り越えてアフターコロナの新社会確立を目指した数々の挑戦が進められています。

しかしながら、全ての産業に関わりを持つ印刷業界の影響は甚大で、2019年の工業統計速報値によると印刷・同関連業の製造品出荷額が5兆円を割り込む厳しい状況のもとで、新たにコロナ禍への対応も迫られるなど、昨年に引き続き今年も試練の年となることは疑いありません。

ジャグラとしては私が会長に就任して3期目となり、昨年に続き「強いジャグラ～遅く・繊細に～」をモットーに事業を推進してまいります。会長職として全国を回る中で、ジャグリストの皆様からお聞きするお話の数々をエネルギーとしてきましたので、直接お会いできない現状はもどかしいのですが、幸いにもWeb活用により、地理や時間に制限されることなくジャグラの諸会議・諸事業は運営されております。

今期は効率的に組織運営を行うため、優先順位を決

めて事業仕分けし、委員会を再編成することで全体の予算を見直し、より具体的な成果が望めるような体制を構築しております。中でも情報伝達の在り方として、Webなど印刷以外で自社が取り組める方法を模索・検討する際のサポートとして、ジャグラBBを活用し、会員の皆様に有益な情報を迅速に届けていきます。

新しい事業として、「ジャグラ認定DTPオペレーション技能テスト」を立ち上げました。コロナ禍のため中止となった「ジャグラコンテスト」のノウハウを活かした新事業です。「ジャグラ作品展」や「年賀状デザインコンテスト」、ジャグラがその活動を支援している「NPO法人 日本自費出版ネットワーク」が主管する「日本自費出版文化賞」など、これらの技能テストやコンテストを目標にすることで、私たちの宝である社員のスキルアップに役立てていただきたいと思います。

コロナ禍の影響でお客様への訪問が減り、自分たちの役割を見直す時間が増えました。その時間を利用して、自社の強みや弱みを見直して事業の再構築につなげたり、プライバシーマークや環境認証であるグリーンプリンティング認定などの資格取得に取り組むのはいかがでしょうか。アフターコロナの時代においては、今まで以上に世の中のニーズの変化を敏感に感じ取る力が求められます。同業者である会員と情報交換することで、新たな気付きが得られるかもしれません。「一社の力でできないことを皆の力で」が組合活動の基本です。会員企業が一致団結し、この厳しい環境を乗り越える気概をもって、アフターコロナの時代においても明るい未来を掴むことを期待して、今年一年頑張りましょう。

皆様のご隆盛と、災害が無い一年であることを祈念し、新年のご挨拶といたします。



中村会長の新年ご挨拶は
ジャグラBBでも放映中!

2021年は 新しいグラフィックサービス 夜明けの年に!

コロナ禍で5年早く訪れたデジタルへの対応
地域密着というジャグラの特長を活かそう!



開された後半は、「withコロナ」という言葉に代表されるようにいかにしてコロナと付き合いながら日常を取り戻すか、手探りで皆が工夫していたように感じます。自分もステイホームの期間中、会社の在り方や社員やその家族の健康など、いろいろなことを見つめなおしました。今年は、昨年の経験を活かしながらいかにして仕事をこなしてゆくか、加えて団体としてもその活動を元に戻すのかが試される年だと思っています。よろしくお願いたします。

●岡本 新年おめでとうございます。2020年を振り返ってみると、個人的には意外と「不幸中の幸いだ」と思うことも多かったです。もちろん業績的なことではなく、自粛期間中余裕があったので、社員を休ませることができましたし、普段多忙で向き合えなかった問題を考えることができたということです。自社の未来を考えたとき、「何が一番大事なんだろう」といった、経営者としての基本に立ち返ることができたという意味で、貴重な年でした。

今年については、昨年の印刷需要の減少がコロナ禍によるものなのか、そもそも抱えている構造的なものなのかといった見極めをしたうえで、withコロナ時代の印刷会社のあるべき姿にチャレンジする「スタートの年」と捉えています。お客様にどのようなサービスを提案できるのか、この実現が試される勝負の年。いろいろなことにチャレンジできそうで、「やるぞ!」という気分です。

●辻 明けましておめでとうございます。昨年はコロナ禍の影響で、設備投資を控えるお客様も多く、業績的には厳しい年となりました。そのような中で感じるのは、「デジタル」という課題への業界の対応が、コロナ禍の影響で5年位早く訪れたという印象です。デジタル社会の中で「印刷」をどのように位置づけるのか、もしくは私たち「印刷」がデジタルをどのように取り込んでいくのか、そのような決断や対応を5年程早めなければならないのではないのでしょうか。「紙とデジタル」は印刷業界にとって久しいテーマですが、

かつて印刷業界にあった「紙 vs デジタル」という捉え方も、今では「紙&デジタル」という考えが主流になっています。デジタル・紙ともに得意不得意な分野があります。デジタルの入り口に紙があったり、デジタルを紙が補完したり、両方のメディアの特性を活かせる提案を今年も心掛けたいと考えています。

●冲 ありがとうございます。中村会長、皆さんのお話を聞いていかがですか?

●中村 岡本副会長が仰った「社員を休ませることができた」という点、実は私も同じなんです。コロナの影響で売上げが減少したのは頭が痛いけど、2019年の年末は残業も多く、だけども「働き方改革」にも手をつけなければならない状況が悩みでしたから。そして辻社長が仰った「デジタルへの対応を5年早めなければならない」という現状認識に身が引き締まるとともに、紙&デジタル両面でのサポート表明、お年玉ももらったような気分です(笑い)。

そして、清水副会長が仰った「組織の運営が制限されて辛かった」という事実。私も会長として全国を回って、ジャグリストの皆さんのお話やご意見を頂戴するのが楽しみでしたから同感です。特に6月の文化典高知大会を中止せざるを得なかったのが辛かった。もちろん一番辛かったのは、数年前から準備を重ねてきた高知県支部をはじめとする四国地協の皆さんでしょうが、年末に『“幻の”高知大会記念誌』が送られてきました。この中で『幻の高知大会物語』と題して、高知・リーブルの坂本さんが「高知で世代交代!!」という過激なスローガン決定に至った顛末を書かれていて、興味深く読みましたよ。

●冲 皆が本音で意見をぶつけて合っていたようで、これこそが組合活動の基本ですね。記念誌は昨年末に皆さんにお送りしましたので、ぜひお読みいただきたいです。



新年のご挨拶

●冲 新年おめでとうございます。本日は新春座談会として、中村会長、東京グラフィックス会長でもある清水副会長、岡本副会長、以上お三方に加えまして、賛助メーカーさん代表として富士フィルムグローバルグラフィックシステムズ(以下FFGS)の辻社長をお迎えし、2020年の振り返りと2021年に向けた抱負をお話いただきます。司会は私、ジャグラ専務理事の冲が務めます。どうぞよろしくお願いいたします。では中村会長からご挨拶をどうぞ。

●中村 新年おめでとうございます。昨年は新型コロナウイルスの影響で、世界中が壊滅的なダメージを受けました。我が国においても、緊急事態宣言によるステイホームの実施や、東京オリンピック・パラリンピックをはじめとした各種イベントが延期・中止となり、閉塞感を感じる一年でした。ジャグラとしても6月の文化典高知大会を中止するなど、苦渋の決断を迫られた年でした。それでもジャグラ会長として頼もしく感じるのは、このような状況下においても若手諸君が随分と頑張っていることです。高知大会のスローガンは「高知で世代交代」という刺激的なものでしたが、それを体現するかのように積極的に活動いただいております。今日は若手リーダーの筆頭である岡本副会長から元気なお話を伺えるはずですし、FFGS 辻社長からはメーカーというお立場からアドバイスいただけると楽しみにやってきました。短い時間ですがよろしくお願いたします。

●清水 明けましておめでとうございます。東京グラフィックスとしても活動が制限された辛い2020年でした。しかしそのような中でも、経済活動が徐々に再

- | | |
|---|-------|
| ●富士フィルムグローバルグラフィックシステムズ
代表取締役社長 | 辻 重紀 |
| ●ジャグラ会長 | 中村 耀 |
| ●ジャグラ副会長・東京グラフィックス会長
倉敷印刷(株)(東京・千代田) | 清水 隆司 |
| ●ジャグラ副会長
(株)クイックス(愛知) | 岡本 泰 |
| ●ジャグラ専務理事(司会) | 冲 敬三 |

● 昨年のコロナ禍における働き方は?

● 沖 さて、昨年のコロナ禍の状況で、皆さんの会社はどのように対応したのでしょうか? テレワークとか Web 会議が話題となり、ジャグラーとしても関連情報を提供するなど努めたわけですが……。会長のお話で「働き方改革」というキーワードも使いましたが、清水副会長のところはいかがでしたか?

● 清水 何も分からず恐怖感が先行して閉じこもっていた春頃はともかく、後半からは少しずつ前に進んでいましたよね。ウチは紙での校正を希望するお客様が多いので、テレワークで済ますことが難しく、後半からは感染対策に気を付け、お客様のご意向も伺いながら、新規も含めて営業を再開しました。

実はテレワークについてはコロナ以前から着手していたんです。介護で辞める社員が増えて、それはもったいないので、パソコンやタブレットを支給して、自宅で作業できる環境を整えていたのですが、どうしても会社に来るんですね。「来るな!」って言うてるのに来るんです(笑)。ですからテレワーク関連の整備はひとまず様子見として、オフィスの消毒やシールドなどの感染防止対策の充実に努めた感じですかね。

● 沖 東京は過密通勤の問題もあるから、テレワークできれば望ましいと思うけど、お客様の事情もありますからねえ。「働き方改革」への取り組みは?

● 清水 会長のところと同じですが、2019年頃、とにかく人手が足りなくて残業が続いたんです。当時は多能工化が進んでおらず、担当が休むとその機械が止まってしまうこともあり、さすがにそれはまずいだろうと、昨年初めからとりあえず全員が2機種稼働できるようにと訓練していました。コロナの影響で訓練に必要な時間が取れたのは不幸中の幸いでしたね。

● 沖 コロナで暇だからってボーっとしてちゃいけないってことですね。ピンチをチャンスに変えるって、

そういう一歩から始まるのかなあ。岡本副会長のところはどうか?

● 岡本 「働き方改革」は各社各様ですから、何をもって「改革」というのか、経営者はきちんと考え、社員に伝え、同意してもらわなければダメですね。ウチでは、「弊社の働き方改革とは、計画生産、計画残業、計画有給だ」と一昨年頃からずっと伝えていきます。計画生産するためには継続受注率を上げなきゃいけませんし、計画残業するためには、社員が週単位・月単位で行動計画を、生産だけじゃなくて打ち合わせや開発も含めて全体調整しないとできません。計画有給は清水副会長が仰ったように、多能工化できなければ順番に休めません。

「改革」っていうのはこれまでのやり方を変えることなので、不安を感じる社員が多いのですが、メリットがあることを説明し、「だったらやってもいいよね」と思ってもらわなくては、経営者のエゴで終わってしまいます。私どももまだまだ道半ばですが、そういう考えで取り組んでいます。

● 沖 押しつけじゃなく社員の理解と同意が重要なですね。では辻社長、FFGSさんはコロナ禍の中で、どのような対応を取られたのですか? また「働き方改革」という業界の課題を考えたとき、どのようなソリューションをお持ちでしょうか?

● 辻 コロナ禍の元での働き方については、緊急事態宣言のとき、多くの企業と同じようにテレワークを実施しました。工場の製造関係とか在宅が難しい仕事は別にしても、通勤による感染を防ぐためネットやPCといったテレワークの環境を整えました。ただ一方で、余計な手間が増えたケースもありまして、例えば消耗品受注についてはネット注文のルートは整備しているものの、ネット環境を持たないお客様からは、電話やFAXでご注文いただくケースも多いのです。そうすると、注文書のFAXをPDFに変換して、それを在宅の入

力担当にメールで送るとか、そういう手間が増えたケースもありました。メーカーとしてはそういったケースにも対応しなければなりません。先ほど清水副会長が仰っていたケースと同じですね(笑)。

緊急事態宣言の解除後は、徐々に通常勤務に戻している現状ですが、全体会議などはWeb会議が多くなりましたね。遠方から出張しなくても済むなど、時間や費用的なメリットも大きいので、これは今後も定着していくと思います。

「働き方改革」に繋がる当社のソリューションはいろいろあるのでとりあえず一つだけ。先ほど清水副会長のお話にあった校正の件ですが、「XMF Remote」というオンライン校正システムがござります(編集注:写真下)。皆様のお客様、つまりクライアントはPCのブラウザを通して、校正を見たり、赤字指示ができます。校正紙を届けに出向かなくて済みますし、クライアントも自由な時間に校正できるので、このコロナ禍の中で問い合わせが増えてきました。このシステムは印刷会社さんが導入するだけでご利用いただけます。クライアント側にはネット環境が整ったPCさえあればOKで、それ以外に新たな設備投資が必要がないので導入しやすいのではないのでしょうか。CTPでワークフローやRIP環境を構築しているジャグラー会員様がほとんどだと思いますが、そういった製造システムと組み合わせ、いろいろな合理化ができますので、この機会にご検討いただければと思います。

● 沖 会社の大小にかかわらず、テレワークが抱える問題は同じですね。Web会議についてはジャグラーでも以前より活用していましたが、コロナ禍の中でより一層定着してきました。委員会によっては開催頻度が増えたり、支部や地協レベルでZoomのアカウントを取得したケースもありますので、組合活動活性化のツールとして今後も活用が進んでいくのではないのでしょうか。

● コロナで浮き彫りになった地域密着の重要性

● 沖 さて、コロナコロナで過ぎ去った2020年の状況をお聞きしてきましたが、岡本副会長が仰ったように、今年はそれに本格的に対応する年にしなければなりません。そしてそれらの対応は、辻社長が仰った「5年早く訪れたデジタルへの対応」という課題解決にも繋がると思います。そこで注目したいのは、昨年末に岡本副会長がコーディネーターとして開催した緊急座談会——これは中止となった全国協議会の代わりとして急遽企画されたもので、「withコロナ、afterコロナ時代、我々はどう生き残るか」というテーマでした。岡本副会長、ちょっと説明していただけませんか?

● 岡本 はい、この緊急座談会は昨年11月中旬に実施しました。「コロナの影響で何もかもが変わってしまった今、これからの時代を見据えて、すべてのジャグラー会員に贈る応援メッセージ」という副題を付け、2部構成で行いました。第1部は「デジタル技術・インターネット技術を駆使して前進をするのか!」、第2部は「今までの得意とするアナログ技術を極めていくのか!」というテーマでしたが、この相反するテーマでそれぞれ営業展開しているジャグラー会員10氏にお話しいただきました。

● 沖 チラシを見ると、パネラー各氏のキャッチコピーが面白いですね。

● 岡本 そうでしょうか? 発案された京都の谷川副会長のセンスは素晴らしいと思います。

第1部のパネラーは、「宇都宮の街をコーディネートする男——宮本誠(みやもと/栃木)」、「マンガ/同人誌で社会に貢献する男——武川優(緑陽社/東京・三多摩)」、「日本一年賀状を売る男——黒木伸治(アーツ/大阪)」、「ネットも社会福祉も、二刀流の男——宮崎真(ニシキプリント/広島)」、「高知から全国へ、自費出版を売る男——坂本圭一朗(リーブル/高知)」の5氏。

2部は「地域のビジネスパートナーを目指す男——大橋邦弘(大橋印刷商会/宮城)」、「経営の柱は紙、環境にもこだわる男——伊東邦彦(キング印刷/福島)」、「様々なひらめきをカタチにする男——國澤良祐(河内屋/東京・港)」、「13台のA3両面機がフル稼働する男——小幡利之(TOP印刷/大阪)」、「鹿児島のお客様を全力でサポートする男——松永英明(松永印刷/鹿児島)」の5氏です。

業界の未来を語る出席者の皆さん 左から清水副会長、岡本副会長、FFGS 辻社長、中村会長、司会の沖専務



富士フィルムのオンライン校正システム「XMF Remote」の画面





緊急座談会「ウィズコロナ・アフターコロナ時代 我々はどうの様に生き残るか!」の告知パンフレット
 個性的なパネラーが語る各種事例は、ジャグラBBで好評配信中です(jagrabb.net)

- 中村 岡本副会長のキャッチコピーがないけど?
 - 沖 並木事務局長曰く、「強烈な個性と強いリーダーシップのカリスマ」「混迷の時代に明確な道しるべを示す若手リーダー」「ジャグラの未来を創る若手リーダー」とのことですよ。どれがいいですか?
 - 全員 (笑い)
 - 岡本 まあ私のキャッチコピーはともかく、個性的な考えを持つ経営者にお話しいただきましたので、何かしらヒントを得ることができると確信しています。この座談会はジャグラBBでも配信中ですし、機関誌でも追って紹介しますので、ぜひ参考にしてくださいね。
 - 中村 これは本当にためになるから、読者の皆さん、ぜひご覧くださいね。
 - 沖 個々の会社の事例について詳しく聞きたいところですが、誌幅の都合もあるのでジャグラBBを見てもらうとして、岡本副会長はどう感じたんですか?
 - 岡本 パネラーの話聞いて気づいたことは、「そうはいってもリアル・印刷が大事だよね。デジタル・Webを使って情報量・コミュニケーションを増やせば、仕事はまだあるよね」ってことです。
- 座談会1部のパネラーは「ネットやWebを活用している方々」でしたが、最終的にはリアルな印刷物を増やしている。Webで情報量を増やして、結果、印刷にも繋げているんです。ですので、この分野に未着手の会員企業においては、ちょっと頑張ってホームページを立ち上げるとか、内容を充実させるとか、諦めずにトライして欲しいと思います。
- 2部のパネラーは「今まで培った印刷を極めている

方々」でしたが、コロナ禍で外部からの往来が妨げられる中で、地域の顔見知りなら大丈夫だろうということで、地元でのコミュニケーションが増えたという話がありました。これは昔から地域密着で商売してきたジャグラ会員にとって勇気づけられる事例でしたね。

●沖 「Webと紙」とか「地域密着」は、ずいぶん昔から我が業界として取り組んできた課題なので、全く新しいキーワードではありませんが、このコロナ禍によって、その方向性の正しさが一層浮き彫りになった感じですかね。

●辻 「地域密着」というキーワードを聞いて、「アジャイル開発」というプログラム開発の手法を思い出しました。「アジャイル」とは「素早い、迅速な」という意味です。本来、プログラムというものは、きちんと計画や仕様を定めてから開発するものですが、「アジャイル開発」とは、とりあえず作って、軌道修正しながら完成させる手法で、これにより短い開発期間を目指すというものです。地域密着の印刷の場合、そういった考え方が参考になるかもしれません。印刷物の受注ありきではなく、地域に根差した諸活動からとりあえず入ってみる。結果として地域が求める印刷需要が創出され、そこで貢献できるという流れは、生き残りの一つのアイデアかもしれません。

もう一つ頭に浮かんだのは、「時消費」です。その時、その場でしか体験できないタイミングでいろんなことをやりましょう、共有しましょうというものです。コロナ禍で人と人の繋がりもなかなか持てない中で、オンライン・オフラインを問わず、知っている人・知らない人と一緒に何かを体験するという試みが増えてい

ると聞きます。

これを印刷に当てはめるとどうなのか? 例えばDMの世界。あるターゲット層にDMを打って、ネット経由で購入を促す場合、購買サイトの「買い物かご」に商品を入れたけれど、最終的に「購入」ボタンを押さない人が一定数いらっしゃいます。そういった人に対して、再び購入を促すようなDMを打つとか、それは今までも行われている手法ですが、これをもう少し進化させると、お客様の次の行動を予測したうえで手を打つみたいな動きが考えられます。しかしそれは、もの凄くターゲットを絞った中で、スピード感を持って実行する必要があるんで、そこはデジタル印刷の出番かなと……。オフセットとはちょっと違う領域で、デジタルも駆使して、地域密着営業の中にそういったきめ細かいサービスを取り入れれば面白い展開になると思うんです。

●岡本 それ絶対面白いと思います。商店街の一角で、ちゃぶ台置いてお茶出すような世界がジャグラ会員の中にはまだまだあって、そういう環境でお客様のことを深く知ること、今、お話があったようなきめ細かい対応が商売に繋がる。旬ですよ。印刷物の旬とかタイムリーに必要な情報を印刷物でお届けする。こういった商売は、大手よりも地域密着の中小印刷会社にしかできないと思います。

●辻 やはり印刷物はリアル感というのが最大の強みですよ。例えば、本でいうと手触り感とか見た目とかそういう感覚は、中身の文章の印象と相まって記憶に残る。そういったリアルな強みを、ネットとかデジタルな手法を使いながら、エンドユーザーにどう訴求していくか? 印刷に関わっている我々の課題でもあり楽しみでもありますね。

●清水 年末、ちょっと安心したのは、話題のマンガ『鬼滅の刃』なんですよ。コミック本の売上げが上位20位辺りまで独占しているというニュース。あれは例外だと言われてしまうとそれまでですが、電子書籍の需要をけん引しているのはマンガの分野なのに、リアルな本が売れている。辻社長が仰った、印刷物の強みとか、所有する楽しみを満たしてくれるのはリアルなものなのかと再認識しました。ちょっと前は、世の中みんなデジタルに変わるんじゃないかなと思って、印刷機やめようかなと思ったこともありましたが嬉しかったですね。

●中村 一連のやりとりを聞いて感じたのは、「基本

的なことを当たり前！」ってことだな。だけど、その当たり前を行う速度を早めなきゃいけないというか、そのためにはデジタルやWebの力を借りるというか、いろいろなツールも使っちゃおうってことなのかな? そして一番大切なのは、僕らはもっと自分たちを、「印刷」のことを信じなきゃいけないね。勇気が出る話をありがとう。

今年の抱負

- 沖 さて、それでは2021年の抱負を伺いたいです。自社の話でもいいし、ジャグラという組織の在り方でもいいし……。岡本副会長、どうですか?
 - 岡本 当社の今年の抱負は2つありまして、一つは私どもの主力商品、「P&D サービス」と名付けていますけど、リアルな印刷とデジタルなWeb、この両方を駆使したサービスの拡販です。お客様の在庫を管理して、PODで刷った印刷物を仕分けして、梱包して各地・各拠点に発送する——この一連のサービスは、印刷需要が減少している昨今でも伸びているんです。教育関係のお客様ですが、いろいろな印刷物を全国の校舎に仕分け発送する必要があって、以前は印刷物だけ請け負っていたのですが、現在は在庫管理やデータやコンテンツ作成、問題集のライティング、仕分け発送まで一括して請け負っています。お客様の手間暇の削減、工程圧縮ができると好評なので、これをさらに拡販したい。PODや加工機・製本機も増設しながら、それを進めようというのが一つの戦略です。
- もう一つはコロナの影響からか、Web経由の問い合わせが増えて、ホームページの仕事やコンテンツマネジメントシステムの仕事、ソフトウェアのライセンス販売等々、こういったデジタル絡みのものが軒並み前年比増となっているんですね。ですからこの分野も強化して、リアルな印刷とデジタルの両方進めていこうと考えています。
- 沖 先ほどの緊急座談会のパネラーの皆さんもそうだけど、需要減少の中でも伸びている仕事を持っているのは羨ましいねえ。
 - 清水 あの座談会の多様な仲間たちの業態を見て、そういった地方の皆さんと一緒に組んで仕事をやっていくというのも、一つのやり方だと思いましたね。コラボする際の打ち合わせだってZoomでほとんどできちゃうってわかったし。というのは、地方の仕事を請

け負って、こっちで一先懸命作って送るんだったら、地元をお願いしちゃったほうが合理的なケースもあるのですね。

●岡本 いろいろな会社がタッグを組んで、3社4社集まって、お客様にサービスを提供するという企業連合——これができるば、自社の能力以上に営業の幅が広がって、多様なお客様のニーズに深く、きめ細かく対応できますよ。今回はウチが営業するから、そっちは製造やってよとかね。これがある意味ジャグラ版のDX※じゃないかと思っているんです。臨機応変にアライアンスを組むのも一つの選択肢かなと。

先日、ホリゾンさんがびわこ工場に「Innovation Park」というショールームをオープンさせたので見に行きましたが、ロボットが動いていたり、他メーカーのマシンとの連携を強調していました。ああいう工場のIT化とか一貫自動生産はこれからどんどん進むだろうし、そうなるとうちで全部持てるのかという問題に必ず突き当たります。だけどジャグラの企業規模では到底不可能なので、会員同士のアライアンスって問題は真剣に考える価値があります。そんなの中小のウチじゃ無理だと思うかもしれないけれど、ジャグラの会員企業は比較的軽装備なので、逆に転換しやすい面もあるんじゃないでしょうか？ 歴史的に見ても時代に即していち早く変化してきた業界ですからね。

●沖 社長長のところは、こういった生産効率の問題をどう捉えているんですか？

●辻 メーカーとしては「生産効率アップをどういうカタチで提案するか」というのは昔からのテーマですが、印刷会社さんが今お持ちの設備を活用するケースも含めて、どれだけフレキシブルな提案ができるのかが問われているのだと思います。それともう一つ重要だと思えるのは「環境問題」。これまでもVOCとか廃液問題がありましたが、2050年までに温室効果ガスの排出をゼロにするとか、脱ガソリン社会を目指すとか、そういった流れも無視できませんね。

●中村 そのアライアンス実現に必要なことは何なの？ 組合はどうサポートすればいい？

●岡本 ありきたりで申し訳ありませんが、キーワー

ドは「コミュニケーション」だと思います。マーケットの状態を知るという意味でのコミュニケーション、仲間との繋がりという意味でのコミュニケーション。これを両方やれるようになったのが今の時代だと思うんです。なので、組合としては、会員企業がお客様のことをより知るためにどうしたらいいか、自分たちのモノづくりをどういう方向でやっていったらいいのか、そしてそれをどのようにしてお客様に伝えてゆくの、そういった分野の情報を提供する、会員同士のコミュニケーションを増やすってことですかね。

●中村 清水副会長、そうだった？ 東グラの役割も大きいよね？

●清水 プレッシャー凄いですね。ここ数年、何となく感じていることは、印刷業界これでいいの？という違和感です。他の業界は適正価格として値上げができていのに、印刷業界は忙しいだけで利益が薄い。生産性を上げるためにも自社のコストをきちんと把握することがポイントと思っています。それに加えて、アフターコロナで飛躍できるようなビジネスアイデアも重要課題です。東グラでは今年も「ビジコン！（ビジネスアイデアコンテスト）」を実施しており、今回のテーマは「Withコロナ時代のビジネスアイデア」なので、楽しみです。今年も会員の皆さんへお役に立てる情報を発信するように頑張ります。

●辻 数年後、2020年とか2021年を振り返ったとき、「コロナ大変だったよね、でも2021年はこんなふうに変ったスタートの年だったよね」と言えるような年にしていきたいですね。

●中村 辻社長、いいこと言うなあ（笑い）

●岡本 いや、本当に（笑い）。コロナ禍で困っている今は、変革の動機づけとしては良いタイミングなんです。皆が同じ価値観を共有して変えられますから。皆の想いが一つになっている今だから、ジャグラの活動はとても大事ですよ、情報発信とコミュニケーションが。僕らは「グラフィックサービス業」であって「印刷業」じゃないんです。先人達から受け継いだ、この名前に相応しい未来に今まさらに行かんとするスタートの年だと思いますね。

●中村 われわれの先輩は偉かったなあ。

●全員（笑い）

●沖 お時間となりました。本日はありがとうございました。

※DX（デジタルトランスフォーメーション）＝企業がビジネス環境の激しい変化に対応し、データとデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズを基に、製品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに、業務そのものや、組織、プロセス、企業文化・風土を変革し、競争上の優位性を確立すること（経済産業省DX推進ガイドラインより）

NEVER STOP

印刷の新しい領域に挑み続ける。

印刷の可能性は、デジタルメディアと繋がることで、もっと大きく広がる。一人ひとりに、欲しい情報がタイムリーに届く。それが、あたりまえになる。新しい社会、新しい日常を、印刷の力で創る。そのために、私たちは挑み続ける。

FUJIFILM
Value from Innovation

Chamonix-Mont-Blanc, Rhone-Alpes, France

富士フイルム グローバルグラフィックシステムズ株式会社



迎春



2021年 誌上新春名刺交換会

コロナに負けるな！ 誌上新春名刺交換会

<p>ジャグラー千葉県支部 支部長 尾形文貴 〒261-0002 千葉市美浜区新港2-13の5 TEL 043(2)42(5)4849 FAX 043(2)42(5)7233</p>	<p>ジャグラー栃木県支部 支部長 高橋亮太 〒321-1421 栃木県日光市所野1-20の183 TEL 0288(6)4(1)2233 FAX 0288(6)4(1)241</p>	<p>ジャグラー東北地方協議会 理事 向井一澄 〒028-1711 岩手県八幡平市大更2-16の9 TEL 0195(76)2514 FAX 0195(75)0731</p>	<p>ジャグラー北海道支部 支部長 渡辺辰美 〒070-0033 旭川市3条通4丁目右1号 TEL 0166(2)612388 FAX 0166(2)612398</p>
<p>ジャグラー愛知県支部 支部長 神山明彦 会員一同 〒451-0042 名古屋市中区那古野1-21の14 TEL 052(5)66(5)1118 FAX 052(5)66(5)1054</p>	<p>ジャグラー新潟県支部 支部長 高橋広好 会員一同 〒950-0084 新潟市中央区明石1-7の20 TEL 025(2)47(3)2245 FAX 025(2)41(8)491</p>	<p>ジャグラー長野県支部 支部長 宮澤徹 会員一同 〒390-0021 長野県松本市筑摩1-11の30 TEL 026(2)5(4)329 FAX 026(2)5(9)849</p>	<p>ジャグラー神奈川県支部 支部長 岡澤誠 〒210-0846 川崎市川崎区小田五丁目一五 TEL 044(3)33(2)787 FAX 044(3)33(2)786</p>
<p>関東複写地方協議会 関東複写センター協同組合 理事長 斎藤隆正 東京都文京区小石川1-4の12 TEL 03(38)1(5)4338 FAX 03(38)1(5)4357</p>	<p>ジャグラー愛媛県支部 支部長 森孝 会員一同 〒790-0003 松山市三番町7-9の2 TEL 089(9)41(3)3314 FAX 089(9)33(3)7911</p>	<p>ジャグラー中国地方協議会 会長 宮崎真 〒730-0003 広島市西区商工センター7-5の33 TEL 082(2)7(6)9544 FAX 082(2)7(8)6954</p>	<p>ジャグラー大阪府支部 大阪府グラフィックサービス協同組合 理事長 岡達也 会員一同 〒541-0048 大阪市中央区瓦町1-6の10 TEL 06(6)22(7)8512 FAX 06(6)22(7)8522</p>
<p>株式会社 大塚商会 代表取締役社長 大塚裕司 〒102-8573 東京都千代田区飯田橋2-18-4 Tel.03-3264-7111</p>	<p>コソミノルタジャパン株式会社 プロダクション印刷事業部 事業部長 須田徹 〒105-0003 東京都港区芝浦7-1-1 TEL 03(6)33(1)9061 FAX 03(6)33(1)9505</p>	<p>リコージャパン株式会社 代表取締役社長執行役員 坂主智弘 〒105-8503 東京都港区芝5-30の2 TEL 03(6)83(7)8800 FAX 03(6)83(7)4546</p>	<p>富士ゼロックス株式会社 執行役員 グラフィックコミュニケーションサービス事業本部 事業本部長 木田裕士 〒107-0052 東京都港区赤坂9-7の3 TEL 03(6)27(1)5111</p>
<p>株式会社モリサワ 代表取締役社長 森澤彰彦 〒556-0011 大阪市浪速区敷津東2-16-15 電話 06-6491-251</p>	<p>株式会社 MHI RMGT グラフィックテクノロジー株式会社 代表取締役社長 広川勝士 〒726-0002 広島県府中市鶴飼町800-2 Tel.(0847)40-1600 Fax.(0847)40-1601 https://www.ryobi-group.co.jp/graphic/</p>	<p>株式会社 ショーワ 代表取締役社長 伊澤秀春 〒101-0065 東京都千代田区西神田二丁目 TEL 03(3)26(3)6411 FAX 03(3)26(3)6409</p>	<p>NS PRINT & POSTPRESS DESIGNからでも 印刷からでも もちろん製本も 謹賀新年 NS 印刷製本 株式会社 代表取締役会長 中村 耀 代表取締役社長 中村 盟 〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町 568 TEL 03-3203-5421 FAX 03-5273-0527 URL http://www.ns-p.co.jp</p>

共立速記印刷株式会社

代表取締役会長 **吉岡 新**
代表取締役社長 **笹井 靖夫**

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋3-11-24
PHONE.03-3234-5511(代) FAX.03-3263-2740

株式会社 サンライズ

代表取締役会長 **添田 隆男**
代表取締役社長 **添田 寛**

〒101-0104 東京都台東区北野二丁目三十二番一
電話。三(三八四五)七三〇

「伝える」
の最上級へ。

野毛印刷

代表取締役社長 **森下 治**

営業企画本部
〒232-0027 横浜南区新川町1-2
☎(045)252-2511
http://www.noge.co.jp

ジャグラ副会長
熊谷 正司

株式会社 熊谷印刷

〒101-0001 秋田市中通6-4-21
TEL.018(5555)0000
FAX.018(5555)0000

代表取締役
熊谷 晴樹

創文印刷出版株式会社

〒080-0821 仙台市青葉区春田町8-3-4
TEL.022(222)0181
FAX.022(222)4246

代表取締役
清水 隆司

倉敷印刷株式会社

〒130-0013 東京都墨田区錦糸4-16-17
TEL.03(6658)0031
FAX.03(6658)0032

企画・印刷・製本・グッズ制作
株式会社 **緑陽社**

代表取締役 **武川 優**

〒183-0003 東京都府中市分梅町3-6-1
TEL.042(351)1900
FAX.042(351)1901
X-Mail: info@ryokuyou.co.jp

代表取締役社長
伊藤 文雄

有限会社 小池印刷

〒380-0606 長野市市御所3
TEL.026(227)6219
FAX.026(227)6214

代表取締役社長
荒川 壮一

株式会社 荒川印刷

取締役会長 **荒川 幹夫**

〒460-0012 名古屋市中区千代田二丁目16-38
TEL.052(100)0066
FAX.052(222)6266

代表取締役社長
岡本 泰

株式会社 クイックス

〒448-0025 愛知県刈谷市野町2-2
TEL.0566(24)5511
FAX.0566(25)0200

代表取締役社長
岡本 泰誠

鈴置印刷株式会社

〒448-0044 愛知県刈谷市池田町5-20-3
TEL.0566(21)1841
FAX.0566(26)0060

SCREEN

代表取締役社長
木谷 活
Katsu Kitani

株式会社 SCREEN GP ジャパン
〒135-0044 東京都江東区越中島一丁目1-1
ヤマタネ深川1号館
TEL.03-5621-8266
FAX.03-5621-8378
www.screen.co.jp/ga

DIAMIC

代表取締役社長
谷本 泰彦

ダイヤミック株式会社

〒130-0026 東京都墨田区海国三丁目14
電話。三(三五六)一五四九
FAX.三(三五六)一五九〇
diamond/sbun

代表取締役社長
羽鳥 雅孝

株式会社 ムサシ

〒104-10061 東京都中央区銀座8-20-36
TEL.03(3545)7717
FAX.03(3545)7718

代表取締役社長
松下 忠

株式会社 ウイング

〒640-8411 和歌山県和歌山市権取1-7-2
TEL.073(453)5700
FAX.073(453)6682

代表取締役
谷川 聡

株式会社 北斗プリント社

〒060-1854 京都市左京区下鴨高木町3-2
TEL.075(791)6125
FAX.075(791)7290

代表取締役
中越 忠男

株式会社 伸光堂

〒780-0840 高知市神田3-3-4
TEL.088(343)3434
FAX.088(343)3434

日経印刷株式会社

代表取締役社長 **廣瀬 智**

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋2-15-5
TEL.03(6758)1001 FAX.03(3263)5814
https://www.nik-prt.co.jp

あなたの会社を守る **ジャグラ・グループ保険**

特長1 掛金が割安です (例: 30歳男性、1口277円/月)
特長2 死亡時保障額は最高1600万円
特長3 事故による入院もワイドに保障
特長4 医師の診査はありません 告知のみでお申し込みいただけます
特長5 掛金のお支払方法も簡単です

お問い合わせはジャグラ事務局・酒井まで **Tel.03-3667-2271**

Column オンラインツアーで新規顧客を獲得

e- 中小企業ネットマガジン Vol.953 より転載 (https://mail-news.smrj.go.jp/)

いただきますカンパニー（北海道帯広市）は、北海道十勝の広大な農場を農家に代わって畑ガイドが案内する農場ピクニックや農場観光ツアー、企業や農協からの協賛で小学校に無料出前授業を提供する食育事業、畑ガイドの人材育成事業などを行っている。例年、春と秋は東南アジアからのインバウンド客、夏は首都圏からの家族連れ客でにぎわっていたが、今年は新型コロナウイルス感染症の拡大でツアー申込者が激減してしまった。

農家の畑を借りてツアーを実施しているため、万が一参加者などから新型コロナウイルスの感染者が現れると風評被害も受ける。同社の井田美子社長は4月末、例年5月から実施しているツアーを断念し、7月17日までの休業を決断した。

再開後は、北海道が掲げた「新北海道スタイル安全宣言」に沿ってスタッフのマスク着用や小まめな手洗い、健康管理の徹底、施設内の定期的換気や設備・器具などの定期的消毒・洗浄など、安全安心なツアー運営を心がけた。またオンライン会議ツール Zoom を使い、現場の様子や生産者とのリアルタイムでの交流をライブ配信で楽しんでもらうオンラインツアーや、収穫作業を見学してもらったうえで、トウモロコシ、ジャガイモ、ナガイモなどの収穫物を客の自宅に届けるオ

ンライン収穫体験も実施した。オンラインツアーの情報を共有する Facebook グループを作成し、約40社の道内事業者と共同で YouTube チャンネル「WE LOVE HOKKAIDO」も立ち上げた。

5 月から9月末まで計24回実施したオンラインツアーの参加者は178名にのぼり、従来は少なかった道内からの参加者や、旅行会社の社内研修利用など新たな需要を獲得し、全体の客数減を前年比50%程度に抑えることができた。オンラインツアーは大学のゼミや企業研修のほか、高齢者福祉施設や障害者福祉施設の入居者など、新しい顧客層の発掘と展開が期待できる。前にリアルツアーに参加した人も参加できるし、リアルツアーへの参加意欲も高まる。スタッフも新しいお客とかわることで仕事へのモチベーションを向上させている。

井 田社長は「コロナ禍で観光業は不要不急の平和産業であることを思い知らされた。今後も災害等が起こる度に大きな影響を受けることになるだろう」と分析。「だが、観光業は癒しや学びにつながる人間にとって必要不可欠なサービスだ。今後はリスクを踏まえて事業を継続できる仕組みを考えていく。どのような体験型観光事業なら継続していけるのか、マーケットの状況や自社のポテンシャルを鑑みて慎重に判断していきたい」と話している。



SHOWA

ユーザーサポートこそ商品

株式会社ショーワは、謄写版および付属品の販売と謄写印刷業の「昭和謄写堂」として、昭和3年に幅弓之助が創業しました。

創業者の幅弓之助は「良いものを売り、売ったものには責任を持つ事」に頑固なまでにこだわり続け、そのこだわりは創業から100年に向けて今なおショーワの社員一人一人にDNAとして脈々と受け継がれています。

長きに渡り、多くの取引先企業様より厚い信頼を寄せて頂けるのも、企業理念にもあります様にユーザーサポートという目に見えない、形のない「商品」だからこそ、付加価値を創造し続け、溢れる情報、市場状況を正確に分析・判断しうる知識とユーザーサイドで常に物事を考える「誠意」が評価して頂けているものと考えています。

今後も常に「ユーザーサポートこそ商品」の企業理念、創業者・幅弓之助の熱い志を胸に社員一同業務につとめていく所存です。

21世紀のグラフィックアーツを共に考えるショーワユーザー会

コラボレーション&リサーチ

SHOWA会

ユーザー会で密に情報交換

- 年間活動
- 研修会 ○工場見学 ○総会・幹事会
 - 会報・メールマガジンの発行 ○有志グループ活動

問い合わせ、入会お申込みは事務局まで
SHOWA会事務局 TEL.03-3263-6141 FAX.03-3263-6149



株式会社

プリントメディアの総合商社

<http://www.showa-corp.jp/>

〒101-0065 東京都千代田区西神田2丁目7番8号 TEL 03-3263-6141(代) FAX 03-3263-6149

お知らせ

サイバーセキュリティ体制構築・人材確保の手引きを公開!

経済産業省・サイバーセキュリティ経営ガイドラインから

経済産業省は、最近多発しているサイバー攻撃に対処するための、サイバーセキュリティ経営ガイドラインを公表していますので参考にしてください。

×

背景にあるのは、サイバー攻撃が高度化・巧妙化し、我が国の産業界を脅かす中、サイバーセキュリティに関する体制構築とそのための人材の確保・育成が各企業の急務であるから。なかでも経済産業省では、企業内の経営層から人事担当者、実務者に至る様々な立場の人が、体制構築・人材確保においてどのようなことを考慮すれば良いのか、要点を効率良く把握できる共通言語として、この手引きを公開した。

同経営ガイドラインの主な内容は、経営者が認識すべき3原則とサイバーセキュリティ経営の重要10項目を挙げている。なかでも同経営ガイドラインの10の指示のうち、指示2(サイバーセキュリティリスク管理体制の構築)および指示3(サイバーセキュリティ対策のための資源確保)について、「手引き」の具体的な検討を行う場合の参考と位置付けている。

主な対象企業は従業員数300名以上のユーザ企業(大企業・中堅企業)だが、グループ企業等、それ以外の条件の企業・組織においても、条件の違いを考慮した上で活用できるので、セキュリティ対策の人材確保・育成の参考にされたい。

経営者が認識すべき3原則

このガイドラインにおいて、経営者は、以下の3原則を認識し、対策を進めることが重要であるとしている。

1) 経営者は、サイバーセキュリティリスクを認識し、リーダーシップによって対策を進めることが必要

経営者はリーダーシップをとってサイバー攻撃のリスクと企業への影響を考慮したサイバーセキュリティ対策を推進するとともに、企業の成長のためのセキュリティ投資を実施すべきである。

2) 自社は勿論のこと、ビジネスパートナーや委託先も含めたサプライチェーンに対するセキュリティ対策が必要

自社のサイバーセキュリティ対策にとどまらず、サプライチェーンのビジネスパートナーや委託先も含めた総合的なサイバーセキュリティ対策を実施すべきである。

3) 平時及び緊急時のいずれにおいても、サイバーセキュリティリスクや対策に係る情報開示など、関係者との適切なコミュニケーションが必要

平時からステークホルダー(顧客や株主など)を含めた関係者にサイバーセキュリティ対策に関する情報開示を行う

ことなどで信頼関係を醸成し、インシデント発生時にもコミュニケーションが円滑に進むよう備えるべきである。

サイバーセキュリティ経営の重要10項目

経営者はCISO(Chief Information Security Officer=最高情報セキュリティ責任者)等に対して、以下の10項目を指示し、着実に実施させるとともに、実施内容についてCISO等から定期的に報告を受けることが必要である。自組織での対応が困難な項目については、外部委託によって実施することも検討する。

●経営者がリーダーシップをとったセキュリティ対策の推進

—サイバーセキュリティリスクの管理体制構築

- 指示1 サイバーセキュリティリスクの認識、組織全体での対応方針の策定
- 指示2 サイバーセキュリティリスク管理体制の構築
- 指示3 サイバーセキュリティ対策のための資源(予算、人材等)確保

—サイバーセキュリティリスクの特定と対策の実装

- 指示4 サイバーセキュリティリスクの把握とリスク対応に関する計画の策定
- 指示5 サイバーセキュリティリスクに対応するための仕組みの構築
- 指示6 サイバーセキュリティ対策におけるPDCAサイクルの実施

—インシデント発生に備えた体制構築

- 指示7 インシデント発生時の緊急対応体制の整備
- 指示8 インシデントによる被害に備えた復旧体制の整備

●サプライチェーンセキュリティ対策の推進

- 指示9 ビジネスパートナーや委託先等を含めたサプライチェーン全体の対策及び状況把握

●ステークホルダーを含めた関係者とのコミュニケーションの推進

- 指示10 情報共有活動への参加を通じた攻撃情報の入手とその有効活用及び提供

【ソース】経産省 meti.go.jp 内

※経産省サイバーセキュリティ経営ガイドライン

20171116003-1.pdf

※サイバーセキュリティ体制構築・人材確保の手引き

20200930004-1.pdf

Horizon

Change the focus

「無線綴じ機 BQ-470
紙折り機 AFC-566FKT」をご愛用のお客様へ

『期間限定下取りプログラムのご案内』

(対象期間：2021年3月末ご発注分まで)

無線綴じ製本機 ICE BINDER BQ-500 と、紙折機 ICE FOLDER AFV-566FKT/564FKT の発売にあわせて、無線綴じ機 BQ-470 と、紙折機 AFC-566FKT をご愛用いただいているお客様を対象とした下取りプログラムをご用意させていただきました。ぜひ、この機会に新商品 ICE Series への買い替えをご検討ください。

下取り
対象商品



無線綴じ機 BQ-470

下取り
対象商品



紙折機 AFC-566FKT

作業効率と製本品質が向上

ICE BINDER 無線綴じ機 BQ-500



■ 特長

- ・高生産性
セット替えの高速化により、小ロットや1冊ずつ厚さが異なるバリエーション製本時にも高い生産性を実現します。
- ・高品質
ホリゾン独自のデリバリー機構により、厚い自身のPUR製本においても背にゆがみのない高精度な仕上がりが実現します。
- ・多様なシステム構成
本身自動投入装置LBF-500や寒冷紗供給装置GF-500を接続することで、本身投入や寒冷紗製本の自動化が可能です。省人化と生産性の向上を実現します。

生産性と折り品質が向上

ICE FOLDER 紙折機 AFV-566FKT / AFV-564FKT



■ 特長

- ・生産性の向上
ナイフストップバーの脱着作業を含めた様々な設定を自動化し、幅広いアプリケーションに迅速に対応します。また、ナイフ折り時の最適な給紙間隔をリアルタイムに計測演算し、最高の処理速度を引き出します。
- ・確かな品質
ホリゾン独自のローラーギャップ機構により、オペレーターのス��に頼らない高精度な折り再現性を実現します。
- ・ワークフローシステム
製本工程全体を最適化するホリゾンの次世代ワークフローシステムICE LINKと連携が可能です。

※弊社営業担当までお問い合わせください。

ホリゾン・ジャパン株式会社 www.horizon.co.jp

本社 〒101-0031 東京都千代田区東神田2-4-5 東神田堀舎ビル5F TEL.03(3863)5361(代) FAX.03(3863)5360
東京支社 〒132-8562 東京都江戸川区松江5丁目10-9 TEL.03(3652)7631(代) FAX.03(3652)8083
京都支社 〒601-8206 京都府京都市南区久世大町510 TEL.075(933)3060(代) FAX.075(933)4025
福岡営業所 〒813-0034 福岡県福岡市東区多の津4-12-17 TEL.092(626)8111(代) FAX.092(626)8112

お知らせ

ジャグラー作品展 応募作品募集中!

競え、プロの技。

『ジャグラー作品展』は、グラフィックサービス工業の技術力向上やマーケットへのアピールを目的として開催するもので、ジャグラーの前身である日本軽印刷工業会が社団法人を設立した1966年より開催されている歴史あるコンクールです。作品展部会(岡澤誠部会長)では、より多くの皆様にご応募いただきたいと、今年から大臣賞受賞4作品に賞金3万円を授与することにいたしました。奮ってご応募ください。

募集
部門

出版印刷物

宣伝印刷物

業務用印刷物

開発・開拓

主催

一般社団法人日本グラフィックサービス工業会

主管

ジャグラー作品展部会

後援

経済産業省

厚生労働省

全国中小企業団体中央会

一般社団法人日本印刷産業連合会

公益社団法人日本印刷技術協会

日本印刷機材協議会

学校法人日本プリンティングアカデミー

業界報道関係各社ほか

開催要項

審査対象

2019~2020年中に完成した作品

応募期間

2020.12.1☉~2021.3.31☉

発表

ジャグラーHPおよび本誌6月号

表彰式

未定(日程は現在調整中)

一般社団法人
日本グラフィックサービス工業会

委員会通信 ジャグラの活動報告です

——ジャグラBB/生産性向上/マーケティング/経営技術研究 各委員会議事録より

7.13 ジャグラBB委員会（第1回）

1. 委員会の目的・方針の確認（原田委員長より）

- ①ジャグラBBはこれまで、印刷技術、ビジネスマナーなどの教育系動画を制作し配信してきた。
- ②「ジャ・グルメ」「ワザコレ!」「インサツノオト」など、会員参加型の番組も配信している。
- ③自社の話だが、雇用調整助成金を活用し、社員にウェビナー（Webによるセミナー）を受けて欲しいと思い、ジャグラBBや他社ウェビナーを利用している。
- ④交流媒体として、仕事の情報交換にも活用範囲を広げたい。
- ⑤委員は具体的に何をするのか？
 - ・企画＝会員にメリットのある企画を考える。
 - ・取材/撮影＝プロが撮影する番組もあるが、スマホで誰もが撮影できる時代なので、自ら取材もしていただきたい。
 - ・集客＝アクセスしてもらうアイデアの企画・実行。
- ※委員は、面白いこと、新しいことにチャレンジしている会員さんの情報を集めて欲しい。

2. 副委員長の任命

本村委員が指名された→全員異議なく承認した。

3. 委員会活動についての意見交換

- ◎YouTubeにジャグラチャンネルがあるが登録者が少ない。とりあえず登録者1000人（広告対象が登録者1000人以上、月の視聴時間4000時間以上が目安）を目指し、これらを通じて動画ビジネスを研究する。
- ◎「ワザコレ!」動画を100本作る。
- ◎番組サムネイルを工夫したら、もっと見てもらえるのではないか。
- ◎会員登録方法がわかりにくいので、機関誌で説明したらどうか？（ホットニュースのページを使う）
- ◎会社のやめかた（ソフトランディング講座）、M&Aなどの番組があったら見たい。
- ◎無料回収されたPCの行方を見届けたい。トレーサビリティを扱う番組。
- ◎ドローンの可能性を研究する番組。活用事例、運用ノウハウの共有、全国でドローンネットワークを構築。
- ◎SNSとの連携を模索する。様々な媒体の宣伝手法の研究。
- ◎各メーカーの機材マニュアルを動画で揃える。メーカー、機種別に揃うと他に例のないものになる。

8.27 ジャグラBB委員会（第2回）

1. 委員会の情報共有システムについて（原田委員長）

当初はFacebookと使っていたが、使っていない方もいるので、zohoというグループウェアを委員会の情報共有ツールとして活用したい。→事務局より機能などを説明し、使用することにした。

2. ジャグラニュース復活の件

過去、週1ペースで配信していたジャグラニュースの復活について検討した。

【主な意見】

- ◎事務局が取材に行くのは現実的ではない。東京発信だけでなく地方発信もあるべきと考えているので、委員は特派員という感覚で協力して欲しい。撮影もしてもらえたら助かるが、まずは情報収集に努めてもらいたい。（委員長）
- ◎内容と配信スパンを決めるのが先。慣れるまでは月1でも良い。まず揃った素材で作ってみては？（副委員長）
- ◎以前は、国内外のニュースを集める/収録日に選定する/スタジオで収録/その他素材があったら紹介/撮影・編集は事務局で行っていた。最近のトレンドは1本1分程度の動画が多い。（影山）
- ◎視聴習慣として定着させるには、月1よりも隔週くらいが望ましい。スケジュールありきだと厳しい部分もあるが、気軽なものでも良いので全国から情報を集めたい。
- ◎スケジュールに追われると内容が伴わない。内容が薄いと視聴が定着しない。
- ◎組合活動として大阪は面白いことやっているらしい。組合が何を考えているのか、地方はなにをやっているのか、地協会長、支部長などにインタビューしてはどうか？

◎定期発信も大事だが、やっつけ仕事も良くない。カテゴリーを4-5つ用意して、ネタをストックしたら（委員で分担）。

◎例えば「今週の支部長」。ご自身でZoomにログインしてもらい、録画して本部に送るといったのはどうか？

◎最近のTVは総集編が多い。ジャグラBBでもカテゴリー別に番組のTOP20を作ったらどうか？ 従来番組を紹介する7～8分の番組なら見るのでは？

◎発信したい人はたくさんいるのではないかと掘り起こしをする意味でも意義がある→ただ、動画制作のハードルが高いので「動画づくりセミナー」をやったらどうか？
→グラフィックサービス業界が、「動画にも精通する集団」

というイメージ形成は将来的にも有益だろう。
→我が社はマニュアルの動画化に取り組んでいる。動画スキルはとても有益である。

【決定事項】

→ジャグラニュース復活に向け以下を進行する。

- ①今週の支部長＝質問をいくつか決めて話を聞く
- ②質問シリーズ＝今週の支部長の派生版として
- ③番組紹介＝番組掘り起こし企画
- ④ジャグリストコーナー＝ペットの話、自慢話、自慢の一品、親睦につながるネタ
- ⑤私の自慢話＝ジャグリストコーナーの派生版として
- ⑥隣の印刷屋＝隣の晩御飯的な企画、リレー形式
- ⑦委員会の進捗情報＝委員会の最後で委員長にインタビュー
- ⑧メーカー情報＝賛助会員へ動画提供の依頼を行う

→「今週の支部長」を委員で手分けして取材する。

- ①委員各自で取材（Zoomで話を聞いて録画データを提出）
- ②支部長でなくても良い。ジャグリストコーナーにつながる。

→動画セミナーを開催する

- ①Zoomでセミナーを開催する。参加費無料。後日BBでも配信する。撮影・編集・公開までスマホで完結する内容にする。時期は10月初旬、講師料は3万円程度。ジャグラスクールの阿部講師に依頼する。

→その他

- ①委員各自でサムネイルの更新を行う。
- ②「インサツノオト」を拡充する。

3. バナー広告募集について

これまで多くの方に出稿して頂いていたが、現在1社のみ。対応を協議したい。

1) バナー広告は必要・不要？

- ①BBの広告価値を上昇させなければならない。
- ②本来はメーカーさんからバナーを載せたいと言わせるものにならない。
- ③まずは内容を良くすることに注力し、広告は現状維持とする。

10.2 ジャグラBB委員会（第3回）

1. ジャグラBB運営報告（事務局）

アクセス分析や会員数の推移について報告した。

2. ジャグラニュース復活にあたって

【決定事項】

- キャスターは高階さんとする。1年契約だが半年交代とする。
- バーチャルスタジオ（CG等）撮影、低コストで進める。
- 10月29日の収録時には委員向けにZoomでつなげる。
- 番組構成について
 - ①オープニング（テンプレートムービーを作成する）

- ②オープニングトーク
- ③業界ニュース（業界新聞、ジャグラ行事等）
- ④投稿動画コーナー（ジャグラ/賛助会員）
- ⑤エンディングトーク

【主な意見】

- ◎月2回収録なので次どうする？ では間に合わない。
- ◎チーム分担（ニュース班と支部長班）したらどうか？
- ◎情報共有のためzohoで作業を行う。必要に応じてZoom等で打ち合わせを行う（各チームで決める）。
- ◎月2回はきついかもしれないので、月1回の打ち合わせでも回せたらよい（各チームで決める）。
- ◎「支部長紹介」は計画的に行う。撮影は自撮りが理想だが、そのためにサンプルムービーやマニュアルが必要。緩い内容でも良いですよと安心してもらう。インタビューの場合はメンバーが行う。
- ◎自撮りの場合、データの送り方がわからない等の問題があるのでは→ジャグラのZoomアカウントを使えば録画もできるし、動画の受け渡しも不必要。
- ◎理事会で協力要請する。

10.21 生産性向上委員会（第4回）

1. 「自社のいま見えていない点の見える化」の件

その後の取り組みについて一人ずつ発表した。

◎瀬尾副委員長

- ①8月末日でインキメーカーの工場が広島を撤退したことに伴い、週1回の定期発注方式に切り替え、定番特練インキのみであった定量発注方式を、CCM、カラーインキ、副資材に拡張。社内人員は完全に関わらない形での自動発注で、間接コストを削減した。
- ②棚管理の見直し、空いた場所を搬入用予備スペースとして活用した。
- ③工場内を何歩歩いているか計測し始めた。毎日12,000歩ほど歩いている。

◎宮崎副会長

- ①ワークサンプリングを午前中3時間で計測し始めた。定点観測することで改善点が見えれば良いと思っている。
- ②営業面では、顧客側にも納期を意識してもらうよう、校正紙に納期記入欄を設けて、書いてもらうことで、現場が詰まらないようにするねらい。

◎武川理事

- ①雇用調整助成金を利用し、A班B班の輪番制出勤を実施。
- ②40%の労働力で仕事を回すことに成功しているが、成功の要因が明確ではないので、検証していきたい。
- ③部署を横断した多能工化を進めたい。

- ④モチベーションの低下を防ぐために、全社員アイデア会議を開催し、現在 150 個ほどのアイデアが出ている。
- ⑤資格取得支援制度を拡充し、対象資格の追加や報奨金の増額などを検討している。
- ⑥同人誌の Zoom 相談会を定期開催している。また、同人誌サークルにアンケート調査を行ったところ、2800 件もの回答が得られた。

◎熊谷委員

- ①Kintone による業務改善を継続中。現時点ではカレンダーの事業だけで活用している。
- ②10 月末から倉庫を借りて完成物を保管することで工場内も整理できている。

◎笹井委員

- ①Free Flow Core を導入し、面付作業の効率化に取り組んだ。まずは名刺の面付から対応し、現在はすべての面付作業に活用している。
- ②効率化はスーパートップダウンで実行。「この人がいないとできない」という仕事を排除したかった。

◎小幡委員

- ①現時点では、まだ課題が整理できていない。

◎稲満委員長

- ①印刷機に電力計を取り付け、稼働状況を計測することで、人稼働率と機械稼働率とを同期させることを試みている。
- ②中間管理職を置かず、社長がすべての部署の進捗をチェックする体制に変更。
- ③3 か月で結果を出す建て直し改革を実行中。
- ④YWT (やったこと・わかったこと・つぎにやること) リストを作成し、その内容を社内内で共有して年末までに改革を進める。

【決定事項】

- 10 月までの活動の取りまとめとして、「生産性向上カード」による活動報告の提出を課題とする。

【主な意見】

- ◎新型コロナ対策についても情報交換していきたい。
- ◎9月26日に稲満委員長が中国地協主催の生産性向上セミナーを Zoom で開催した。今後も各エリアで開催していきたい。
- 11月16日に OGS からの依頼でセミナーを行う。

10.28 経営技術研究委員会 (第 4 回)

1. 委員会活動について

1) 委員の追加

福島県支部・キング印刷の伊東邦彦氏に加わっていただくこととなった。→11月理事会にて承認を得た。

2) 取材先企業のリストアップ、ヒアリング項目の検討

取材先企業、ヒアリング項目検討について進捗を確認した。

3) キング印刷見学会実施

委員会&同社見学会を実施する方向で検討することとなった。→2月開催予定であったがコロナ禍により延期を決定。

4) その他 (業界動向)

- ①GoTo の影響で、観光地を中心に人出が戻りつつある。
- ②流れていたイベントも開催されることが多くなりつつある。
- ③印刷業界、自社ともに仕事は減っている。

11.16 マーケティング委員会 (第 4 回)

1. ヒアリング項目の検討

【決定事項】

- マーケティング委員会と印刷物創注委員会の違いを明確化する。違いは下記の通りとする。趣意書を修正するかどうか、印刷物創注委員会と協議する。
- マーケティング委員会=IT・デジタルを中心として新たなサービスを展開している会社の事例を紹介。
- 印刷物創注委員会=印刷を中心として新しい商品やサービスを提供している事例を紹介。
- 《宿題》次回までにテストヒアリングを実施する。

【主な意見・質問】

- ◎実際にテストヒアリングしてみないと判断できない。
- ◎新しいサービスとは、革新的なサービスを指すのか、ちょっとしたオプションの追加レベルも含まれるのか。
- ◎アナログも含まれるのか、IT ありきなのか。
- ◎ヒアリング先の会社をカテゴリ分けした方がわかりやすい。
- ◎自社のサービスが革新的であることを、経営者が自覚していないケースもあるため、うまく聞き出すような質問を考える。
- ◎マーケティング委員会の取材先は、IT 活用を必須としているのではないか。
- ◎紹介事例のレベルが高くなり過ぎると、会員の参考にならないのではないか。
- ◎IT 活用を条件としてしまうと対象が狭すぎる。もっと対象を広げるべきではないか。
- ◎印刷物創注委員会とマーケティング委員会の切り口を分けないと取材先がダブってしまうため、マーケティング委員会は IT 活用に絞って取材先を決める方がよい。

【取材先の再選定】

- マーケティング委員会でリストアップした元気な会社を、印刷物創注委員会とマーケティング委員会どちらの取材対象とするか分類した。

今月は誌幅の都合で、各委員会の出席者リストを割愛させていただきました。ご了承ください。



TOKYO QUALITY.

すべての SP コミュニケーションに最良の品質を。

東京リスマチック株式会社

なんでも相談窓口

プリントデスク ☎0120-269-132

平日(月~金) 9:00~17:00 E-mail: support@lithmatic.co.jp



Lithmatic
http://www.lithmatic.net

ジャグラ

12.4 拡大理事会を開催

秋田県支部

ジャグラ秋田県支部（松原巧支部長）は、昨年12月4日、秋田メトロポリタンホテルにおいて、拡大理事会を開催しました。

×

同支部の理事会は通常2か月に一回開催されていますが、この拡大理事会は、年に一回、支部会員全員に呼び掛けて開催しているもの。当日は会員企業から15名が参加して開催されました。

冒頭、松原支部長から、「このコロナ禍で大小かわらざる影響のある我が業界ですが、この年度末から年度初めに

かけて、はたして繁忙期が来るのかどうか、私たち経営者は今後どのように生きていくのかを、考えておかなければなりません。コロナ禍の状況で皆様にお会いする機会がなかなか設けられませんが、今回はリアル会議として開催しました」と挨拶がありました。

その後、支部および本部の動きなどの報告がありましたが、特に中止となった全国協議会の代わりとして11月に開催された緊急座談会については、「この状況下でも工夫を凝らした経営で業績を上げている仲間たちがいる。参考になるのでは是非見ていただきたい」旨の案内がありました。

会議の後は、感染防止に注意しながら、久しぶりに楽しい懇親会が開催され、互いの元気を確認しながら情報交換など歓談。東海林正博全国監事と東海林正豊専務の締めの挨拶でめでたくお開きとなりました。



秋田県支部拡大理事会で挨拶する松原支部長と当日の様子
YouTubeに動画あり（QRコード参照）

ジャグラ

中村会長に藍綬褒章

12.9 経済産業省にて伝達式

本誌11月号既報の通り、中村会長の永年の功績に藍綬褒章が授与されましたが、その伝達式が12月9日、経済産業省にて執り行われました。



左より経産省の平井商務情報政策局長、中村会長ご夫妻、同省・高木コンテンツ産業課長

日本自費出版ネットワーク

2020年の自費出版年鑑を発行

誌上表彰式の冊子も完成

NPO 法人日本自費出版ネットワークは、毎年、日本自費出版文化賞を主管（主催はジャグラ）するとともに、『自費出版年鑑』を発行していますが、昨年末に2020年度

版が発行されました。また、同文化賞の表彰式はコロナ禍により中止となりましたが、『誌上表彰式』と題した記念冊子も出来上がり、受賞者はじめ関係者に配られました。

×

『年鑑』はこれまでのA5判からB5判にサイズアップされるとともにカラーページも増え、リニューアルされました。中山千夏代表の「刊行のことば」に始まり、今回の文化賞大賞受賞者へのインタビュー、受賞作品紹介、受賞者のコメントと選考理由、入選作品・応募作品の概要、同ネットワーク会員名簿といった構成。単なる記録としての意味合いだけでなく、各著者がどのようなテーマで、どのような想いを持って出版に至ったのか、自費出版を手掛ける企業だけでなく、そうでない企業にとっても参考となる内容となっています。ご購入は同ネットワーク（jsjapan.net）にお問い合わせください（税別2000円）。



『自費出版年鑑2020』
（写真：日本自費出版文化賞事務局）



『誌上表彰式』の冊子



短 信

小池一子選考委員に文化庁長官表彰

日本自費出版文化賞・グラフィック部門の選考委員を務める小池一子さんが、令和2年度の文化庁長官表彰を受けました（12.1発表/12.17表彰）。受賞理由は「永年にわたり、クリエイティブディレクターとして活躍するとともに、後進の育成にも努め、我が国の芸術文化の振興に多大な貢献をしている」とのことです。

（情報提供：日本自費出版ネットワーク川井代表）

法律相談ネットワーク

「グラフィックス法親会」のご案内

皆で入ろう、困った時のために！ いつでも気軽に相談できる、皆の法律専門家！

取引先とのトラブルを、解決したい！

個人情報保護の覚書って、どう書くの？

基本契約書の内容チェック、どうしよう？

専任弁護士を雇う余裕はないなあ...

グラフィックス法親会の概要

- 専任 山本正 / 岡田尚人 弁護士
- 会費 20,000円 / 年（税別）
※年度途中入会は月割換算（年度末12/31）
- 会員特典
 - ① 無料相談（随時）
※ 遠方の場合は電話・ファクス対応
 - ② 情報交換会（適時開催）

申し込み・お問い合わせはジャグラ事務局まで
電話：03-3667-2271

我が社の自費出版事情

第4回：交友印刷(株) (兵庫県神戸市) <https://www.koyu-p.com>

同社・交友プランニングセンター センター長 **横井 司**

プライベート出版という域を超え、昨今では社会問題など幅広いカテゴリーをカバーしている「自費出版物」。ジャブグラ会員の「自費出版」への取り組みを紹介する連載の第4回目は、自費出版に取り組んで40年余りの実績を持つ兵庫県の交友印刷(株) (杉本浩康社長)・交友プランニングセンターの横井センター長にご寄稿いただきました。

×

交友プランニングセンターの変遷

当社の自費出版事業は結構早く、昭和50年代半ばくらいからである。それまでの頁物主体の印刷事業の一環として自費出版にも視野を広げた。

地下鉄高速神戸駅の壁面に「作ってみませんか？ あなたの本を！」という広告を出した。時には駅前の書店で「自費出版フェア」として営業課の面々が交代で応対した。

その後、自費出版事業も順調に社会的な地位を得るようになり、昭和63年、神戸三宮の駅前一等地の商業ビル、サンパル内に自費出版専門店(当初は企画専門店)「交友プランニングセンター」を開設。初代センター長の小西昭寛と女性スタッフの麻生芳子(自費出版アドバイザー第1号)の努力の甲斐があり、売上も年間3000～4000万円を推移するようになってきた。

ただ、残念なことに平成7年(1995年)の阪神・淡路大震災により、兵庫区にあった本社建物も三宮の自費出版

専門店も甚大な被害を受け、一時は事業継続が危ぶまれた。大震災の翌年、神戸市の斡旋で本社をポートアイランドに移転した。交友プランニングセンターも補修の終わったサンパルビルで再開した。

それから20年余りが経った。センターは3年前にJR三ノ宮周辺の再開発でサンパルビルが解体予定なので、一時本社に移転している。

普通の人のための、最高の自費出版を目指して

最近では後期高齢者の方の自費出版が目立つ。自分史が多いが、趣味の本、研究本といろいろであり、90歳前後の人が目立つ。特に子供や孫のために自分の本を残したい、という。もちろん翻って本を出すのは自分のためでもあるが……。

8年前、交友プランニングセンター長に配属された私は、当初自費出版なんて、言葉が悪いかも知れないが、お金持ちの道楽くらいにしか考えていなかった。海外旅行に飽きた一部の知的な高齢者が、プロの真似をして本を出すくらいにしか考えていなかった。

それがこの2、3年で意識が変わった。ともかく一人一人には、その人だけの人生が有り、その人だけの過去がある、ということだった。必死に次の世代に伝えたい、損得なしに自分の思いを伝えたい、そんな普通の人の本作りに自費出版アドバイザーとしてお手伝いすることである。

自費出版には商業出版に無い純粋さが存在する。もちろん自費出版の中には、書店やアマゾンで売りたい人も少なからずいる。でも殆どは売りたい意欲よりも、本を作りたい意欲が大きい。昨今の自費出版ネットワークの受賞作品には、商業出版より遥かに素晴らしい内容が潜んでいる。商業出版の一部には、読者に対し安易な迎合主義がある。

最近の私は、自費出版アドバイザーの原点に立って、“普通の人のための、最高の自費出版”をモットーに頑張りたいと思っている。

……………弊社が手掛けた自費出版物の数々……………

直接お客様との対話の中から「明日をどう生きるか真剣に考えておられる著者」の方々と十分な対話を重ねながら、自分の想いを伝える良い「本」作りのお手伝い、生きた証をお届けするために、ご予算等の範囲内でご満足のご本を作っていくのが弊社のモットーです。

(交友プランニングセンターの挨拶文より)

「友月書房」という独自ブランドで展開し、本を出版した方、これから出版しようとする方などで「交友クラブ」という有志の会を作り、交流会や研修会を開催しています。



荒井勲著『あの時…そして今』
震災記録集 / A5判 / 本文 174 頁 / 並製本

阪神淡路大震災から25年。当時の震災を生々しく伝える市民語り部リレートーク・ライブ版。著者はこの大震災の体験を基に、東北や熊本などの被災地にいち早く駆け付け、被災された方々を物心共に勇気づける。愛称ひまわりおじさん。著者の前作『あなたにも出来る被災者支援』は第22回日本自費出版文化賞入選作品。



藤保君子著『リビングウィル』
短編小説集 / A5判 / 本文 158 頁 / がんだれ製本

ナースとしての、クリスチャンとしての著者の実体験をモチーフに、様々な人間の生命の尊厳を見つめる良質な短編小説集。尊厳死宣言書も掲載。第20回日本自費出版文化賞入選作品。姫路文学同人。



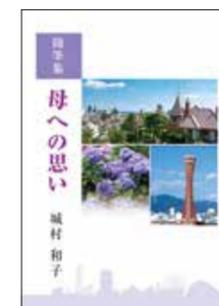
古谷昭雄・八重子著『ダイヤモンド婚記念作品集 (油絵と写真)』
作品集 / 縦 195 × 横 210 ミリ変型判 / 128 頁 / がんだれ製本

ご主人が写真、奥様が絵画の素敵なダイヤモンド婚記念作品集。それぞれが、その分野で活躍され、賞もとられている。いつも本当に仲の良いご夫妻で、10年前にも『金婚記念集—写真と油絵』を出版された。



神澤淳子著『俳画 四季』
俳画集 / A5判 / 本文 64 頁 / 並製本

著者は兵庫県近隣のギャラリー経営の女主人である。日舞を極め、日本画も極められた。さらに川柳、俳句も。日本画は県展にも市展にも出品された。神戸の湊川神社にも幾点が奉納されている。前回の『趣味と歩んで 絵と川柳』に続いて、今回は『俳画 四季』を上梓された。



城村和子著『母への思い』
随筆集 / A5判 / 本文 148 頁 / がんだれ製本

生来の右頬の赤痣によって、実母より疎んじられた著者が、淡々とパソコンで書き綴った母への思い。戦中、戦後と深く悲しい人生が語られる。それでもやがて良き伴侶と巡り合い、子供さんも三人儲けられた著者の現在は幸せそうである。常に前向きで一所懸命に生きて来られた思いが切実に胸を打つ。

特に死期が迫った母親から、「お化けみたいな顔をして怖いから、早く帰れ」と罵られる場面は、何とも言えぬ切なさを感じた。



和田幹司著『グレーター真野の空から』
地域紹介集 / A5判 / 本文 234 頁 / 並製本 / 表紙カバー付き

阪神・淡路大震災の被害が最も大きかった神戸長田の町の復興を長年支えてきた著者四冊目のシリーズ本。今回は長田の町をいろいろな角度から掘り下げ、実際に歩いて紹介している。暴力団追放にも活躍されたが、一転やさしい目で長田の町を見つめ直している。2019年第14回長田文化特別賞受賞。



白井勝彦著『哀しみに寄りそって生きる』
戦後物語集 / 四六判 / 本文 182 頁 / がんだれ製本

6歳で母親の病死に立ち会った戦災孤児の著者が、戦争後ソ連に抑留されて、最後にウズベキスタンで亡くなった父親の墓を訪ねて行く感動の物語。ウズベキスタンという日本から遥か遠い国に日本人墓があり、手厚く葬られていたことは意外であり、ウズベキスタンという国を再評価すべきかも知れない。



高野圭介著『チョイス AI 定石300』
研究書 / B5判 / 本文 152 頁 / 並製本

関西の囲碁界でその名を知らない人はいないと言われる著者。毎年本場の中国の囲碁大会に招待されて、いつも好成績を収められている。そんな著者の長年の囲碁の研究が、さらに昨今のAI囲碁の研究も含めて、この一冊となった。今年卒寿を迎えられたが、水泳、テニス、卓球、エアロビクス、ヨットを始め、俳句にも造詣が深い。



横井傘二(司)著『人工島』
短歌集 / B6判 / 本文 208 頁 / がんだれ製本。

著者は恥ずかしながら私自身である。高校時分から50年近く書き溜めた短歌を自費出版した。目的は自費出版アドバイザーの立場から、逆に自費出版をする側に立って、自費出版を考えてみることだった。内容はともかく、自費出版をする側の不安、楽しさ、嬉しさを味わった。



自費出版専用サイト「交友プランニングセンター」
<https://www.koyu-p.com/yuugetu.html>

版画と謄写とこれから

第6回：11.22 ガリ版シンポジウムの報告ほか



Atelier 10-48 主宰 / 版画家 **神崎 智子**

本誌11月号でも紹介されていましたが、昨年11月7日から12月6日まで、滋賀県のガリ版伝承館において企画展「ガリ版の道具たち展」が開催されました(①～④)。期間中の11月22日には「ガリ版シンポジウム」も開催され(⑤～⑧)、私もスピーカーとして登壇いたしました。新ガリ版ネットワークの活動として毎年開催されている企画展に伴うシンポジウムで、コロナ禍の中での開催ということで、私は東京からオンラインで登壇しましたが、滋賀の現場は大きな会場で、定員を半数にご参加いただいたようです。この模様はYouTubeによるライブ配信もされました(※1)。

田村紀雄先生について——シンポジウムのメインスピーカーである田村紀雄先生は、東京経済大学名誉教授、社会学者。世界中のメディアと民主運動などの活動とを紐付けて研究をされています。研究の一環で謄写版にもなじみがあり、ガリ版研究家・志村章子さんとの共

著で『ガリ版文化史』を出版されています。

当日は「わたしとガリ版」という演題で、研究活動以前、先生自身の少年期や青年期のエピソードも交えて、謄写版との馴染みをお話しされていました。1934年生まれの先生ですので、時代を感じる内容のお話でした(⑥)。先生の研究には謄写版も登場しますが、他メディア、つまり他の印刷術やテレビ、もっと古い時代の粘土板や太鼓などもメディアの一つとして論じています(※2)。

志村章子さんの謄写版研究の始まりが「田中正造研究会」(※3)にありますように、人の発するメディアに魅力を感じているようで、半世紀以上の長い研究の中で先生が見ていたのは「人」なのではないかと、たった2日お会いしただけですが、私はそう感じました。現在先生は、雑誌「公評」にて連載「ジャーナリスト梅月高市評伝」を執筆しています。

このシンポジウムのために、私は東京八王子の先生ご自宅に2度ほどお伺いし、Zoomにて登壇しました。今のコロナ禍の最中でのイベントを、ガリ版という超アナログ技術^{たしな}を睹む会が開催することも実に面白く思えます。シンポジウムは『20世紀の日本社会を支えたガリ版～過去から未来へ～』というタイトルで、現場の会場では新ガリ版ネットワーク、滋賀県近江八幡市蒲生地区まちづくり協議会、京都で活躍されている水口菜津子さんが登壇。オンラインでは私たちの他に、福岡のガリ版研究会の小松良子さんがZoomでご参加されました(⑦)。

私の発表はほとんど自己紹介になりましたが、謄写版での版画制作研究についてお話させていただきました。この『グラフィックサービス』連載をお読みになっている皆さんにとっては、知った内容であると思います。研究から見

シンポジウム開催前に新ガリ版ネットワーク事務局長「田中浩さん」にインタビューをした動画を公開中です



滋賀・ガリ版伝承館「ガリ版の道具たち展」の様相



【上段】②～④：展示の品は全国から寄付で集まった道具と志村章子さんが収集した資料によって構成されている

【中段左】⑤：東近江市・あかね文化ホールに集まった来場者は150名以上

【下段左より】⑥：シンポジウムのメインスピーカー田村紀雄氏

⑦：シンポジウムはYouTubeライブでも放映された 上段左は司会の新ガリ版ネットワーク・田中事務局長、右は田村先生と筆者、下段は小松良子さん

⑧：筆者の発表の様子

(②～⑤写真提供：新ガリ版ネットワーク)



えてくるものや、鉄ヤスリ以外の製版法など、ほとんど本連載のダイジェスト版のような内容を10分間でパッと喋ったので、皆さんに伝わったか不安ですが、お話しさせていただきました。本連載そしてこのシンポジウムの発表にしても、私は研究者として活動している(研究者といっても版画家ですけれども)ことをお話ししておきたいと思っていましたし、まだ「版画になっていないガリ版」ですが、とはいえ先人による作品はあるものなので、それらに対して敬意を持ち、研究をしてもらうために「版画にする」ということを目標に活動している事をお話しさせていただきました(⑧)。

謄写版も危機だが、版画も危機——そんな中、気になるニュースが入ってきました。町田市立国際版画美術館内に版画工房があります。その工房が移転縮小されるのではないかとこのものです。版画美術館が位置する芹ヶ谷公園が「芸術の杜」構想で大規模に改修されるといので、改修後、現状の版画研究が行えるだけの工房機能が規模的に不可能ではないかと心配されています。

今回のプロジェクトは気軽な「体験」を軸としているもので、とても肯定的な印象を持つ反面、全貌が明らかになるにつれ、版画や印刷に関わるものとしては、不安な印象

を持つものです。版画の道具や技法を気軽に万人に楽しんでもらうことはもちろん重要ではありますが、版画・印刷を行うための研究機関と考えたとき、改修後十分に研究活用ができない状態になってしまうのではないかと、この美術館に関わる方たちがすごく心配していらっしゃる。既にこういった移転縮小に反対する署名活動(※4)が起こっておりますが、私もいち版画研究者として、またこの美術館で謄写版版画講座を行った経緯もあり、不安な事柄であります。

謄写版の研究シンポジウムから、版画研究もふくめ心配な事柄が尽きない毎日です。私が愛読している書籍「アート・スピリット」の一文(※5)を胸に、引き続き誌面連載を通じて皆様に活動を報告いたします。今年もどうぞよろしくお願いたします。

- ※1 YouTubeによる公開は2020年12月までで現在は非公開です
- ※2 田村紀雄著「メディア辞典」等
- ※3 神崎智子著「謄写版のこれまで・これから」P111
- ※4 署名活動にご賛同いただける方は、私にメール (info@10-48.net) いただければ、主催者よりお預かりしている署名用紙をPDFでお渡しができますので、よろしくお願いたします
- ※5 一自分にとって何がいちばん大切なのか、自分の態度を明らかにしなければいけない—ロバート・ヘンライ著「アート・スピリット」P192

12月の事務局日誌

- 2日 プライバシーマーク現地審査（千葉）、印刷物創注委員会（本部）
- 3日 ジャグラ機関誌新年号座談会（本部）→FFGS 社長・中村会長・清水副会長・岡本副会長・沖専務、プライバシーマーク現地審査（宮城）
- 7日 プライバシーマーク審査（長野）
- 8日 プライバシーマーク審査（長野）
- 9日 日印産連 ステアリングコミッティ・専務理事連絡会議（日印産連会議室+Web会議）→中村会長・沖専務、経営技術研究委員会（Web会議）
- 10日 SPACE-21 キャラバンミーティング（Web会議）
- 11日 ジャグラ BB 委員会 番組収録（本部）、ジャグラコンテスト専門委員会議（Web会議）、東京ドーム打ち合わせ（本部）→沖専務・並木事務局長・長島部長
- 14日 プライバシーマーク現地審査（福岡）
- 17日 プライバシーマーク審査（神奈川）
- 18日 PMS 構築相談（更新）→東京・城東会員様
- 21日 プライバシーマーク審査（新潟）、マーケティング委員会（本部+Web会議）
- 24日 プライバシーマーク審査会（本部）
- 25日 ジャグラ BB 委員会 番組収録（本部）→中村会長
- 28日 仕事納め

令和3年1月のスケジュール（12.1現在）

- 5日 仕事始め
- 6日 日印産連新年交歓会→開催中止、新潟県支部新年会
- 7日 福岡県支部新年交歓会→開催中止
- 8日 プライバシーマーク現地審査（秋田）→延期、福岡県支部新年会
- 12日 東印工組新年会（パレスホテル東京）→中止、ジャグラ BB 委員会番組収録（大宮商会スタジオ）
- 13日 プライバシーマーク現地審査（長野）
- 15日 ジャグラ会長挨拶（本部）、拡大理事会（Web会議）、総務委員会（本部）、群馬県支部新年会、宮城県支部新年会
- 16日 長野県支部・講演会・新年会（長野市・ホテルメトロポリタン長野）
- 18日 プライバシーマーク現地審査（大阪）
- 19日 プライバシーマーク現地審査（大阪）
- 21日 ジャグラコンテスト専門委員会議（Web会議）、広報委員会（本部）
- 22日 岩手県支部・印刷工組 合同新年会（アートホテル盛岡）→中止
- 25日 プライバシーマーク現地審査（広島）
- 29日 生産性向上委員会（Web会議）、ジャグラ BB 委員会 番組収録（本部）

2月のスケジュール（12.1現在）

- 3日 「PAGE2021」開会式（池袋サンシャインシティ）→中村会長・沖専務、プライバシーマーク審査会（本部）

訃報

■西村勉元ジャグラ理事逝去

西村勉元ジャグラ理事（高知・侑西村膳写堂）が11月18日に逝去されました。家族葬で見送ったとのこと（喪主は奥様の西村静子様）。ご冥福をお祈りいたします。

【主な略歴】 高知県支部長＝昭和58年～平成元年、ジャグラ監事＝昭和57年8月～昭和58年8月、ジャグラ理事＝平成2年8月～平成6年8月

■細井武関東複写地協副理事長逝去

細井武関東複写地協（関東複写センター協同組合）副理事長が11月29日に逝去されました（享年63）。通夜は12月3日、告別式は4日に執り行われ、ジャグラから沖専務が参列し、最後のお別れをしました。ご冥福をお祈りいたします。

事・務・局・便・り

事務局便り、今年もよろしくお祈りします。「ウィズコロナ、アフターコロナ時代、我々はどうのように生き残るか」という緊急座談会を会員限定でジャグラ BB にて放映中です。ご覧いただいた方から「大変、感動し、勇気づけられた」「コロナ禍におけるそれぞれのご苦労とご努力を、つぶさに聞かせていただけて大変ありがたい」など、続々と感想をいただいています。まだご覧になっていない方は、ぜひご覧ください。（K.N）

月刊グラフィックサービス No.830 2021 01

月刊「グラフィックサービス」830号

■発行日 令和3年1月10日（毎月1回）
 ■発行人 中村 耀
 ■編集人 清水 隆司
 ■発行所 一般社団法人 日本グラフィックサービス工業会 略称ジャグラ
 〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町7-16
 TEL 03-3667-2271
 FAX 03-3661-9006
 WEB https://www.jagra.or.jp/

ジャグラは一般財団法人日本情報経済社会推進協会指定のプライバシーマーク指定審査機関です

■編集部 メール edit@jagra.or.jp

◎企画：ジャグラ広報委員会

委員長 清水 隆司 / 副会長
 委員 中村 耀 / 会長
 田中 秀樹 / 東京・城東
 米田 和秀 / 関東複写
 斎藤 成 / 東グラ専務理事
 沖 敬三 / 専務理事
 外部委員 藤尾 泰一 / (有)インフォ・ディー
 事務局 阿部奈津子
 守田 輝夫

◎原稿・編集・校正：ジャグラ事務局ほか

沖 敬三 並木 清乃 阿部奈津子
 今田 豪 守田 輝夫 酒井 玲子
 長島 安雄 (以上、ジャグラ事務局)
 斎藤 成 (東京グラフィックス/広報委員)
 藤尾 泰一 (有)インフォ・ディー/広報委員)
 日経印刷(株) (校正のみ)

- ◎ 渉外 並木 清乃 守田 輝夫
- ◎ 広告 酒井 玲子
- ◎ Web 阿部奈津子
- ◎ 動画 今田 豪

◎組版/デザイン (有)インフォ・ディー

組版 = Adobe CS6/CC ほか
 フォント = モリサワ0TF/モリサワBIZHほか

UD FONT by MORISAWA

※本誌の一部にユニバーサルデザインフォントを使用しています

◎製版/印刷 日経印刷(株) (東京・千代田支部)

RIP = 大日本スクリーン Trueflow
 CTP = 富士フィルム XP-1310R
 刷版 = 大日本スクリーン PT-R8800ZX
 印刷機 = ハイデルベルグ社 SM102-8P
 インキ = DIC
 用紙 = 三菱ニューVマットFSC-MX 菊判62.5kg
 ※本誌はFSC森林認証紙（管理された供給源からの原材料で作られた紙）とLED-UVインキ（リサイクル対応型）を用い、環境に配慮した印刷工場で生産されています。https://www.nik-prt.co.jp/

Copyright 2021 JaGra/禁無断引用
 ※本誌記載の製品名は一般に各メーカーの登録商標です。原則、TMや®マークは省略しています。
 ※乱丁/落丁本はお取り替えいたしません。

ジャグラBB JaGra Broadband Contents Service

HOTNEWS 2021年1月号

ジャグラが運営する、印刷業関連のセミナー、情報動画配信サイトです。2005年の開局以来、印刷業の情報収集、人材教育ツールとして多数の印刷会社に活用されています。

今年もやっぱりジャグラBB

謹賀新年



高階 亜理沙

(一社)日本グラフィックサービス工業会 中村 耀 会長

ジャグラニュースVol.407(1月5日配信)にて、ジャグラ中村会長より新年のメッセージを頂きました。

新年あけましておめでとうございます！いつもジャグラBBをご覧いただき誠にありがとうございます。今こそ共に力を合わせ、未来を切り開いていきたいと思います。本年もジャグラBBをどうぞよろしくお祈りいたします。ジャグラBB委員会

今月のおすすめ番組

▶最新情報はWEBをチェック



【緊急企画】我々はこの様に生き残るか！緊急座談会【第1部】(全2巻)



初めてのスマホで動画編集講座 [Adobe premiere Rush]



web知識講座 [httpsのsってなに?] wordpressも学びます！





リョービMHI
グラフィックテクノロジー株式会社

菊全印刷に新風を



RMGT 970 誕生

いまの環境社会に適合するために、もっとも大切なことはなんでしょうか？
地球や環境にやさしく、それでいて生産性が高い、新時代の菊全印刷機を開発しました。
新開発の RMGT 970 は、最大紙寸法 650×965 mm（最大印刷寸法 640×930 mm※1）。

菊全判用紙やK判用紙に、ジャストサイズです。

さらに、メイクレディから試刷り、本刷りまでをノンストップで行える自動印刷機能※2により、
印刷準備時間の短縮や稼働率の向上を実現します。

菊全判印刷機 RMGT 970 が菊全印刷に新しい風を吹き込みます。

※1 片面印刷時の仕様です。両面印刷時は 630×930mm
※2 スマートアシストプリンティングのオプション名称で開発中

Assist Your Potential

— 技術力と創造力で、あなたの可能性を支援する —

リョービMHIグラフィックテクノロジー株式会社
〒726-0002 広島県府中市鷺飼町 800-2 TEL 0847-40-1600
<https://www.ryobi-group.co.jp/graphic/>